

〈解答〉

- 1 ア 2 イ 3 エ 4 ウ 5 エ 6 イ 7 ア 8 ウ
- ② 1 ア 2 ウ 3 エ 4 イ 5 オ
- ③ ① 接続 ② 主 ③ 修飾 ④ 述 ⑤ 独立 ⑥ 主
 ⑦ 述 ⑧ 主 ⑨ 修飾 ⑩ 修飾 ⑪ 述 ⑫ 修飾
 ⑬ 修飾 ⑭ 修飾 ⑮ 述 ⑯ 主 ⑰ 修飾 ⑱ 述
- A 修飾・被修飾 B 並立 C 主語・述語
 D 修飾・被修飾 E 補助 F 主語・述語
 G 修飾・被修飾 H 修飾・被修飾 I 修飾・被修飾

配点 各1点 40点満点

〈解説〉

- ① 並立の関係にある文節はそれぞれ交換が可能である。「洪水や／暴風に」(4)「静かで／広い」(8)。補助の関係にある文節は助詞の「は」が補えることが多い。「沈んで(は)／いった」(3)「おもしろく(は)／なかつた」(5)。7「妹が／拾った」と言い換えられるので、主語・述語の関係と分かる。

- ② 連文節の文の成分も、述部→主部→独立部→接続部→修飾部の順に押さえていくとよい。

文法 (1)

I 言葉の単位

- ① 文章 文が集まって、大きな主題を表したものを。
 1 散文 ① 説明的文章(論説文・説明文) ② 文学的文章(随筆・小説)
 2 韻文 詩・短歌・俳句

② 段落 長い文章の中の、内容によるひとまとまり。

1 形式段落 作者が書きながらまとめた段落。書き出しは一字下げる。

2 意味段落 読者が読みながらまとめていく段落。

③ 文ひとまとまりの考えや事柄を表した、ひと続きの言葉。

④ 文節 文を意味のこわれない程度に小さく区切ったもの。

1 文節の関係

① 主語・述語の関係

ア 何が どうする。 イ 何が どんなど。

ウ 何が 何だ。 エ 何が ある(ない)。

② 修飾・被修飾の関係

例 美しい 鳥が 鳴く。(連体修飾) 鳥が 美しく 鳴く。(連用修飾)

③ 並立の関係 例 兄と 姉は 外出した。

④ 補助の関係 例 父は 外出して いる。

⑤ 接続語 例 寒かったので、コートを 着た。

⑥ 独立語 例 ああ、みごとな 景色だ。

2 連文節 二つ以上の文節がまとまって一つの文の成分としてはたらくもの。

※「並立」と「補助」の関係にある文節は必ず連文節となる。

3 文の成分 連文節の場合は一語と呼ぶ。

① 主語(部) ② 述語(部) ③ 修飾語(部)

④ 接続語(部) ⑤ 独立語(部)

⑤ 単語 言葉の最小単位。

1 自立語 2 付属語